



ウクライナのための祈り

チャプレン 司祭 河村博之

「彼は答えた。『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」 (ルカによる福音書 10章 27節)

先日、大学の近くの喫茶店に寄った時のことです。レシートの裏を見ると「with all our heart (Luke 10:27)」とありました。ルカによる福音書 10章 27節は「善きサマリア人のたとえ」の1節であることが分かりました。この喫茶店は子供たちの学習・発達を支援するための施設の一角にあります。普段は子供たちとその親御さんが利用するスペースで、美味しいコーヒーとお菓子に出会い、レシートには聖書の言葉が添えられているのですから有難いものです。

しかし、本文では「You shall love the Lord your God」とあるはずですが、何かの事情でしょうか、神・主が示されていません。主がおられるから、神を愛することと同じように、人を愛することが初めてできるのではないかと思うのですが。

このようなことを思い巡らしておりますと、ウクライナとロシアとの緊迫した情勢のことが胸に浮かびました。今まで仲良く行き来をしていた人々の暮らしが、権力者の思惑により、破壊されていくという現実を報道される映像を通して目の当たりにし、返す言葉が出ないほどの悲しさにさいなまれます。

冒頭の善きサマリア人のたとえでは、律法の専門家とイエスとのやり取りが記されています。律法の専門家はイエスを試そうとして、また正当化しようとして質問します。イエスの答えは、法の専門家の思惑を超えたものでした。たとえに続いて「だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」(36節)、律法の専門家は「その人を助けた人です。」

(37節)と答えざるを得ませんでした。彼らにとって「サマリア人」は口にしたくない名前だったからです。

これは聖書の話ではありません。現在起こっている話です。いつの時代にも、複雑な感情がある中で日々暮らしていることを思い起こさせられます。

「神様、ウクライナでは緊迫した情勢が続いています。ロシアの人々とのつながりが、権力者の思惑によって破壊されてしまうことはつらく悲しいことです。主がよき道をお示しくくださいますように。アーメン」



ウクライナのための祈り

正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいる
あなたの大切な子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教

A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell

